



介護老人保健施設「けやき」のリハビリリーダーを務める作業療法士の目黒敦さん。青森県の病院で4年間の経験を積んだのち、中嶋病院グループに入職して16年になる。

中嶋病院リハビリテーション部の遠藤知恵さんは、急性期・回復期リハビリを担当。目黒敦さんは、介護老人保健施設「けやき」で生活期のリハビリを担う。働く場所は違いますが「同じスタッフルームにいますので、常に情報共有ができ、引き継ぎもスムーズ。施設への入所が決まった方には退院前に挨拶をしたり、訓練の様子を見たりと、次のステップに向けて早めに動き出せるのも、同じグループの良さですね」(目黒さん)。「退院後の患者さんの様子を、次に引き継いだ施設のスタッフが常に教えてくれます。入院中の自分のアプローチが間違っていなかったか確認できますし、順調に回復していると聞くとうれいです」(遠藤さん)



グループ全体で、約130名のセラピストを配置。生活の基本となる「動」を通して、利用者に寄り添い続ける。

の段階でご家族に家の写真を撮ってもらったり段差を測ってもらったりするのですが、施設の入所時にも、改めてスタッフが家屋評価に伺い、在宅生活を具体的に想定してサポートします」(目黒さん)。「患者さんが思い描いていた退院時のイメージと乖離しないよう、目標を共有し一緒に頑張ります。リハビリは患者さんとスタッフが1対1で関わるもの。動作だけでなく、表情から気持ちを汲み取ることも大切です」(遠藤さん)。

今春開所予定の介護複合施設 care Nではリハビリ部を拡張し、より多くの利用者の支援を目指す。

つなぐ/つながる
地域の新しい介護のカタチ

介護複合施設

医療が近くにある心強さ、リハビリで湧き上がる前向きな気持ち、食事で感じる喜びやワクワク感。医療と福祉サービスの連携が、充実のシニアライフをサポートします。

2022年4月誕生

HPはこちら

care N
医療・介護が
つなぐつながる

かなえたい暮らしをサポートする 楽しく動ける日常生活へ 寄り添い続けるリハビリのあり方

連載
「中嶋病院グループのつながり」
第3回

「つなぐ、つながる」を合言葉に、積極的な地域貢献を行う中嶋病院グループ。中でも、病院から介護施設まで一貫した情報共有とサポートを行うリハビリを頼りにする利用者も多い。「動ける」喜びを感じながら、安心して生活できるように。利用者の“その先”を常に見つめるプロフェッショナルに話を聞いた。



中嶋病院リハビリテーション部係長の遠藤知恵さん。理学療法士として中嶋病院に勤務して20年のベテラン。「歩けた!トイレに行けた!と一緒に喜べる存在でありたいです」

入院から社会復帰までをグループ全体でサポート

病气やケガをきっかけに、それまで普通できていたことが難しくなったり、運動機能が低下してしまったり。日常動作の困難は、生活に支障をきたすだけでなく、気力の減退につながることも多い。そのため、基本動作の訓練を行う「リハビリテーション」は、機能回復に加え精神サポートの面でも重要だ。病院や入所施設、在宅ケアなど、リハビリには多様な形があるが、中嶋病院グループはそれらを網羅。例えば、病气やケガで入院した場合、入院直後や手術前から急性期病棟でリハビリを始め、回復期リハビリに移ると退院後の生活に向けた機能訓練を実施。退院後の外来リハビリや施設利用などへつなぎ、社会復帰までを長くサポートする。リハビリの間隔を空けず、すぐに次の段階につなぐ体制も万全だ。